

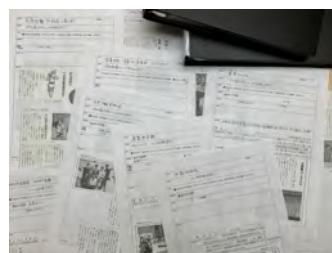
宮浦ギャラリー六区 《瀬戸内「直島部活史」資料館》 公開のお知らせ

宮浦ギャラリー六区（香川県・香川郡直島町）では、2019年9月からアーティスト・下道基行によるプロジェクト《瀬戸内「直島部活史」資料館》を開始し、これまで4回の展示を公開してきました。5回目となる今回は「直島部活史」と題し、直島で昭和期から盛んに行われてきた「大人の部活動」を取り上げます。

メディアの皆様におかれましては、この展示の告知協力、ならびにご取材いただきたくお願いいたします。



写真: 山本紉



さまざまな部活動の調査用紙



昔の宮ノ浦地区の青年団の写真
(提供: 田中春樹)

近年「大人の部活動」は、他者とつながる方法の一つとして都市部を中心に注目されており、アート業界でも活発に取り上げられています。一方、直島では昭和期から「大人の部活動」が盛んに行われ、現在も60近くの団体が活動しており、島の生活に根付いています。下道はこれを直島独自の魅力の一つであると考え、町内の広報誌などから直島の「大人の部活動」の歴史や現状を調査しました。部の活動をまとめた年表や調査用紙が展示され、部活動の変遷や活動の様子をご覧いただけます。さらに、展示公開後も島の方々に「大人の部活動」に関するお話を聞き、年表や調査用紙を更新していきます。

訪れる方には本展示を通して、直島が持つ日常の豊かさを感じていただければ幸いです。

瀬戸内「直島部活史」資料館

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島 広報担当 太田・宮重

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel. 087-892-2550 Fax. 087-892-2011

E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <https://benesse-artsite.jp/>

インフォメーション

会期	2023年9月9日(土)～10月29日(日) ※会期中の土・日のみ開館
開館時間	13:00～17:00 / 最終入館16:30 (9/17(日)のみ16:00閉館)
会場	宮浦ギャラリー六区 / 瀬戸内「 」資料館 (香川県香川郡直島町2310-77)
鑑賞料金	520円
アーティスト	下道基行
キュレトリアル・アドバイザー	三木あき子
主催	公益財団法人 福武財団

※施設や作家へのご取材、インタビューをご希望のメディア様はお気軽に担当者にご連絡ください。

宮浦ギャラリー六区

2013年、直島・宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。

建築家・西沢大良による設計で、かつて島民が行き交っていた娯楽の場「パチンコ999(スリーナイン)」を、隣接する公園とともに、島内外の人々が集う憩いの場として開館しました。

瀬戸内「 」資料館

直島を中心とした瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて調査、収集、展示するプロジェクトです。そこに住む人々、関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交えて活動を展開しています。「 」の中には毎回の展示のテーマが表記されます。一連の営みは記録として保存し、次への展開に活用していきます。

2020年には、東京都現代美術館で開催された「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021受賞記念展」にて下道基行の近年の代表作として展示されました。

アーティストプロフィール

下道基行 (したみち もとゆき)

1978年岡山生まれ。2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」(2001-2005)、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」(2006-2010)、日本の国境の外側に残された日本の植民/侵略の遺構をさがす「torii」(2006-)など、展覧会や書籍、ワークショップなどで発表を続けている。フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで視覚化する。2019年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外さまざまな展覧会に参加。さらに、作家として作品をつくることと並行して、「Re-Fort Project」(2004-)、「新しい骨董」(2014-)、「旅するリサーチラボラトリー」(2015-)など、さまざまな人々とのグループ/コレクティブでのプロジェクト活動も多数行っている。2019年より「瀬戸内「 」資料館」を企画・監修し、「館長」に就任。